

2020年度 事業報告書

2020年4月 1日から 2021年 3月 31日まで

特定非営利活動法人 ちきゅう市民クラブ

設立16年度は、コロナウイルスによるパンデミックで、ひたすら、自粛と試練の年となった。毎年、海外から芸術家を招聘して行ってきたコンサートや大使館での交流事業など、一切不可能となった。

事業のみならず、毎月の月例会も、開催できない月が多く、集会ができない分、会員からの会費もいただく機会を失った。情報収集を行い様々な支援金などを調べ、該当するものには、挑戦した。

- ・東京都のアートにエールを！：もともと6月に予定していた実現できなかった、グレゴリーセドフの演奏会のプロジェクトで、これまで応援してきた視覚障害の演奏家たちとのコラボを企画した。彼らは、助成金の情報を探すのも難しく、登録のウェブサイトのフォーマットから申請をしなければならず、全盲の方には、全く応募が不可能なシステムになっていた。これに関し、東京都はパラリンピックを主催し、障がい者への配慮やその啓発を率先して行う立場であるのだから、代理申請を認めて欲しいと嘆願し、認められ助成金を各自頂くことができた。NPOとしては、企画制作を行ったが、助成金は各自への支払いとなるため、経費を助成金獲得者で分担し、録画配信を行った。現在も、東京都のアートにエールを！のウェブサイトで公開されている、「パラアーツde エールを！」が我々のプロジェクト。コロナ禍で困難を抱えている人、及び医療従事者へエールを送る趣旨。
- ・この収録をもとに、その後、K&Aとの主催で、ライブコンサートを10月に開催。88人定員の松尾ホールに、ディスタンスをとって、20人、2回公演を行った。まだまだ、コロナ禍の影響が強く、集客が大変だった。
- ・10月に、国内の若いダンサーを支援するための「マリンスキー劇場の系譜」バレエガラコンサートをK&Aと主催。この公演は、出演者も頑張って、少し、状況が良くなりそうだった時期でもあり、約300名程のお客様がお越し下さった。文化庁の助成金を申請していたが、開催まで、交付されるかどうかかわかなかったが、終演数日後に、採択され交付が決定したので、赤字を免れた。しかし、実際に、今期中には半分のみのお入金で、今会計では、赤字となっている。
- ・12月にも、K&Aとロシア連邦国際文化科学協力庁との共催により、赤坂区民ホールにて、「ロシアの新しい歌」コンサートを開催。こちらは、時期も悪く、400席の会場に、お客さんは40名と言う厳しい状況でした。

大変な思いをして企画しても、お客様もなかなかいらっしやらない、かといって、何かあると怖いので、積極的に営業することもできず、やってもやらなくても大変で、当日終わるまでのストレスや心配がものすごく、しかも経費ばかりが掛かるという状況でした。これを機に、しばらく、活動を休止し、もっぱら助成金の獲得に専念しました。

また、ホームページ、FACE BOOK ページ、ツイッター、インスタグラムなどのSNSは、細々と更新、投稿して活動と存在の広報に勤めています。

事業名	内 容	実 施 時 日	実 施 場 所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
一般を対象として福祉、芸術文化に関する啓発、推進事業	「パラアーツde エールを！」 コンサート ロシア人ピアニスト、 箕輪健太、 全盲のフルート奏者、 綱川泰典、全盲の ソプラノ歌手、川端 みき、視覚障害バリ トン歌手、北原新之助 によるコンサート	2020年10 月17日	スタイン ウエイ サロン 松尾ホール	5人	一般：20名×2 回	0
一般を対象とした国際理解、芸術文化推進事業	「マリンスキー劇場の系 譜」華麗なるロシア音楽 とバレエの饗宴」	2020年 10月31日	オリンピッ ク青少年セン ター大ホール	7人	一般： 300人	1750
一般を対象とした国際理解、芸術文化推進事業	「ロシアの新しい歌」 プレミアコンサート	2020年12月	赤坂区民 ホール	4人	一般：40人	0
一般を対象とした国際理解に関する啓発事業	ホームページでの 啓発・広報事業	通年				100

